

みんななかまさ!

〈 れいはいのプログラム 〉

しかい : かなざわ けいこ

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 1、しずかなころ | |
| 2、みんなで歌うた | ♪「あしたが好き」P. 36 |
| 3、みんなでのる | 主のいのり P. 92 |
| 4、みんなで読むせいしょ | ルカによる福音書第 15 章 1-32 節 |
| 5、みんなで歌うた | ♪「童神 ウチナーグチ」P. 3 |
| 6、みんなで聞くおはなし | 「がらがらどん」すがさわ くにあき |
| 7、みんなで歌うさんびか | 讃美歌 312 番 ♪「いつくしみふかき」P. 74 |
| 8、けんきん | ♪「いまそなえる」P. 92 |
| 9、しずかなころ | |

〈今日の活動〉 弓矢であそぼう

〈 ほうこく 〉

7日(日)は、「おてんき」でした。絵本「はじまりの日」(著:ボブ・ディラン、
画:ポール・ロジャース、訳:アーサー・ビナード/岩崎書店、2010年)を読んでくだ
さいました。ボブ・ディランが、息子のことを思いながら、「フォーエバー・ヤング」
という歌をつくった。自然にうかんできて、そのまま出来上がった。この曲に、ポ
ール・ロジャースの爽やかな絵が加わって、すてきな絵本になったそうです。



活動は、雨模様とあって、園舎2階で工作をしました。と、いっても、型紙をはさ
みで切るのですが、それを少し折って、高い高い場所から、ふわっと落とすと、きれいに「クルクルクル
ル〜」と落ちるのです。でも、少しでもバランスが悪かったら、クルクルと回りません。みんな、脚立に登っ
て、高い場所を目指して、手を伸ばし、落とします。横を見れば、同じように脚立に登っているお友だち。
「きょうそうしょ。」と、滞空時間を競っていました。薄いコピー用紙ですので、ふわっと舞う様子が、とても
軽やかできれいでした。おやつは、ミニカレーライス。みんな大喜びで食べていました。

〈 こどもといのる 〉

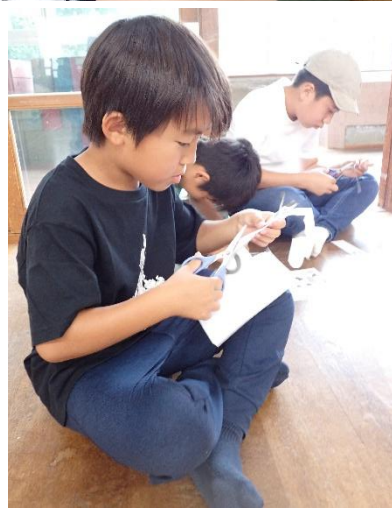
6月7日(日)は、「統一マダン神戸」でした。あいにくの雨でした。子どもたちみんなと、雨の中、たくさ
ん練習したエイサーを雨に負けず、踊りました。本当に子どもたちは、カッコよかったです。子どもたちに
は、ほんとにいつも元気を貰っています。これからも、子どもたちみんなが、元気よく過ごすことができま
すよう祈ります。(やまじ だい)

〈 おしらせ 〉

◇7月4日(土)は、「ほしまつり」です。あそびにくる人、お店を手伝ってくれるひと。色んな人たちが集ま
って、たのしいひと時になりますように。小学5年生以上の人たち、お手伝いを募ります。希望の人
は、事務所まで声をかけてください。

牛乳パックを集めています。集まった牛乳パックは「おかえりティッシュ」「ただいまロール」になりま
す。牛乳パックは、45212枚から 44枚 集まりました。合計 45271枚 になりました。2016年5
月末に80000枚に到達し、2016年6月より新たにカウントをスタートしています。

2026年6月7日(日)





第一五章

一 さて、取税人や罪人たちが皆イエスの話を聞くようにして近寄ってきた。二 するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。三 そこでイエスは彼らに、この譬をお話しになった。四 あなたがたのうちに、百匹の羊を持つてゐる者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなつた一匹を見つくるまでは捜し歩かないであらうか。五 そして見つければ、喜んでそれを自分の肩に乗せ、六 家に帰つてきて友人や隣り人を呼び集め、「わたしと一緒に喜んでください。いなくなつた羊を見つめましたから」と言うであらう。七 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであらう。

八 また、ある女が銀貨十枚を持つていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つくるまでは注意深く捜さないであらうか。九 そして、見つけたなら、女だちや近所の女たちを呼び集めて「わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから」と言うであらう。一〇 よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであらう。

二 また言われた、「ある人に、ふたりのむすこがあった。三 ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。四 それから幾日もたないうちに、弟は自分のものを全部とりまわめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果たした。五 何もかも浪費してしまつたのち、その地方にひどいきさんがあつたので、彼は食べることに窮しはじめた。六 そこで、その地方のある住民のところに行つて身を寄せたところが、その人は彼を畑にやつて豚を飼わせた。七 彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいとい

思うほどであつたが、何もくれる人はなかつた。八 そこで彼は本心に立ちかえて言つた、『父のところには食物のあり余つてゐる雇人が大ぜいゐるのに、わたしはここで飢えて死のうとしてゐる。九 立つて、父のところへ歸つて、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました。一〇 もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください。』二 そこで立つて、父のところへ出かけた。まだ遠く離れてゐたのに、父は彼をみとめ、哀れに思つて走り寄り、その首をだいて接吻した。三 むすこは父に言つた、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかつて、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません。』三 しかし父は僕たちに言いつけた、『さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。』四 また、肥えた子牛を引いてきてはふりなさい。食べて楽しむのではないか。五 このむすこが死んでゐたのに生き返り、いなくなつてゐたのに見つかつたのだから。』それから祝宴がはじまつた。六 ところが、兄は妬にいたが、歸つてきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、二六 ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』と尋ねた。七 僕は答えた、『あなたのご兄弟がお歸りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなされたのです。』八 兄はおこつて家にはいろうとしなかつたので、父が出てきてなだめると、二九 兄は父にむかつて言つた、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかつたのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さつたことはありません。三〇 それなのに、遊女どもと一緒にゐて、あなたの身代を食いつぶしたのあなたの子が歸つてくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました。』三一 すると父は言つた、『子よ、あなたはいつもうわたしと一緒にゐるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。三二 しかし、このあなたの弟は、死んでゐたのに生き返り、いなくなつてゐたのに見つかつたのだから、喜び祝うのはあたりまえである。』